

一般公開に  
おいでください!

## 7月22日に加速器室などを一般公開

サガハイマツトの一般公開を7月22日(土)午前10時から開催します。玄関ロビーや診察室、治療ホール・治療室はもちろん、ふだんは見ることができない直径20メートルのシンクロトロンがある加速器室も見学できます。各ポイントで、スタッフが発射線がん治療について説明します。

当日は、サガハイマツトの正面玄関で受け付けます。事前申し込みは不要ですが、施設管理の都合上、当日受付の際、住所、氏名の記載が必要です。なお、当日はサガハイマツトの駐車場は利用できませんので、公共交通機関をご利用ください。(午前中は混雑が予想されます)

※診療や装置の状況、その他やむを得ない理由により、一般公開の一部または全てを予告なく中止する場合があります。



加速器室での説明の様子

日時 7月22日(土)10:00～15:00  
※最終受付は14:30  
受付場所 サガハイマツト正面玄関  
問い合わせ 佐賀国際重粒子線がん治療財団  
TEL 0942(81)1897  
Eメール saga-himat@saga-himat.jp

### スタッフ紹介

物理室長 溝田 学さん

【略歴】みぞた・まなぶ / 1956年佐賀市出身。佐賀市立立新小学校、佐賀大学附属中学校、久留米附設高校を経て京都大学理学部卒業。医学物理士として電機メーカーや放医研(千葉県)などで粒子線治療のシステム設計・開発などを歴任し、2014年10月からサガハイマツトへ。趣味はウォーキング。鳥栖市在住。



### 万全のバックアップで患者さんの治療支える

患者さんの治療の際の照射方向決定などプランニングのほか、重粒子線の治療に使う高度な装置の維持管理に携わっています。元々電機メーカーで粒子線治療用のシステム設計を行っていましたが、その後千葉県の放医研で勤務した時、装置を作る側から患者さんの側に立った業務に携わりたいと思い、今の仕事に就きました。直接顔を合わせることはありませんが、サガハイマツトに多数おいでいただく患者さんの治療を支えていると思うと、非常にやりがいを感じます。現在、第3室での治療開始に向けて調整の真っ最中ですが、患者さんが安心して治療を受けられるよう、万全なバックアップを心がけたいと思います。

### ●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくお祈いします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

### サガハイマツト通信 vol.17

(平成29年7月号)

【お問い合わせ】

発行 公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)本村

所在地 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町3049番地

TEL 0942(81)1897 FAX 0942(81)1905

HP <http://www.saga-himat.jp/>

# サガハイマツト通信

Vol.17

(平成29年7月号)

## 7月22日に一般公開



一般公開でスタッフから重粒子線治療の方法などの説明を受ける参加者(2016年7月の一般公開から)

- CONTENTS ●寺嶋医師インタビュー  
●データで見るサガハイマツト  
●一般公開のお知らせ  
●【スタッフ紹介】溝田 学 物理室長



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

### サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 0942-50-8812  
(受付時間:平日の9時～12時、13時～17時)  
メール [saga-himat@saga-himat.jp](mailto:saga-himat@saga-himat.jp)

九州国際重粒子線がん治療センター(愛称:サガハイマツト)

# サガハイマツト 治療患者数が2000人を超える

寺嶋広太郎  
主任医長  
インタビュー



【略歴】  
てらしま・こうたろう／福岡県福津市出身。  
九州大学病院、九州がんセンター、放射線医学総合研究所、九州大学病院別府病院などで放射線治療に携わり、2017年4月からサガハイマツト主任医長。

サガハイマツトは今年4月に治療患者数が2000人を超えました。また、スキャンニング照射装置を搭載した治療室の稼働に向けて準備を進めています。そこで、4月からサガハイマツトの医師として着任した寺嶋広太郎主任医長に重粒子線治療の特長や治療開始に向けて準備が進んでいる子宮がん治療について聞きました。

▼4月からサガハイマツトに着任。これまでの経歴を含め、簡単な自己紹介をお願いします。

福岡県出身ですが、中学・高校は、佐賀市の弘学館で学びましたので、佐賀とはご縁を感じます。

これまで、九州大学病院、九州がんセンター、九州大学病院別府病院、放射線医学総合研究所(放医研=千葉県)などで放射線治療全般に携わってきました。特に九州大学病院では、高精度放射線治療やハイパーサーミア(がん温熱療法)など、最先端の治療から緩和治療まで幅広くがん治療に携わってきました。

## 開院から4年が経過

▼重粒子線治療の特長について教えてください。

大きな特長は、エックス線による放射線治療と比べて線量の集中性が優れていることと、がん細胞を殺傷する効果が高いことが挙げられます。

重粒子線は、がん病巣に集中的に照射できるので、エックス線より高い線量の照射が可能です。そのため、より高い治療効果が期待でき、周りの臓器への影響を最小限におさえ、副作用も少ないことから、患者さんの体の負担も少なくなります。また、がん細胞を殺傷する効果が高いことで、エックス

線では効きにくいとされてきたすい臓がんや骨肉腫などに対する効果も期待できます。

▼サガハイマツトについての着任前のイメージと、実際着任されてからの感想はいかがですか。

岡山県以西では初めての重粒子線がん治療施設ということで、開設当初は患者さん自身をはじめ、各診療科の先生方にも重粒子線の特長や適応などを知っていただくまでに、相当なご苦労があったと聞いています。現在は開院から4年が経過しているため、サガハイマツトに患者さんをご紹介いただく先生方も重粒子線についてご理解いただいていることが多く、着任して間もない私との連携もスムーズにできています。また、九州新幹線の新鳥栖駅の目の前という好立地は治療を受ける患者さんにとって素晴らしい環境だと思います。ちなみに、駅前にもかかわらず、5月下旬には、すぐ近くでホテルが舞う姿を見かけて驚きました。

## 子宮頸がん治療の準備進む

▼今年度から新たに子宮がんと食道がんが治療対象となる準備が進んでいます。子宮がんでの重粒子線治療に適した症例はどのようなものですか？

子宮がんには、子宮頸がんと子宮体がんがあり、重粒子線治療の対象となるのは主に子宮頸がんです。

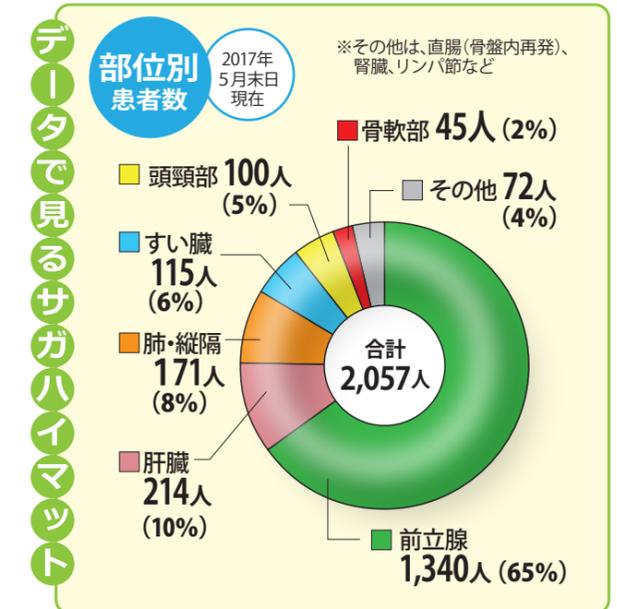
子宮頸がんの多くは扁平上皮がんという組織型になり、標準的な治療は手術またはエックス線による放射線治療となります。放射線治療では体の外から照射する方法と腔内からの照射を組み合わせで行い、治療成績も良好です。しかし、腫瘍が大きく、通常の放射線治療では線量不足になる場合などで、他に転移がない状況であれば重粒子線治療が選択肢になりえます。また、子宮頸がんの約25%に見られる頸部腺がんも、重粒子線治療の効果が期待できます。

現在サガハイマツトでは、子宮がんの治療に向けての準備を整えている状況ですが、治療の流れとしては、まずリンパ節の領域を含めて照射したあと病変部に絞って照射を行います。照射回数は合計20回となり治療期間は5週間です。1回の治療時間は治療前後の処置の時間を除き、20分程度です。照射による痛みはなく、体の負担も少ないと考えています。

▼治療を進めるに当たり、患者さんに対して心がけていることは何ですか。

サガハイマツトの全スタッフはもちろん、県内の医療機関をはじめ紹介していただいた各医療機関の先生方やサガハイマツトをご支援くださる方々に支えられた結果だと思います。迅速に診察、治療に入れるようスタッフ一丸となって進めていったと聞いていますので、その結果としてこれほど多くの患者さんを治療することができたと思っています。

一方で「サガハイマツトは予約が取りにくい」というイメージがあるようですが、実際はそうでは



ありません。症状によって前後することもあります。お問い合わせをいただけてから1週間から2週間以内に初診を行っています。タイミングがよければ翌日に初診が可能な場合もあります。

▼今後の重粒子線治療やサガハイマツトの展望、課題についてお聞かせください。

昨年度は重粒子線治療の有効性が認められた骨軟部腫瘍が、重粒子線ですべて公的医療保険の適用となりました。今後、他の部位にも公的医療保険の適用が拡大するよう、全国5つの重粒子線がん治療施設で協力し、治療実績を積み上げているところです。

また、今年度はスキャンニング照射という新たな照射方法を使った治療も始まります。スキャンニング照射と従来の照射方法の利点をそれぞれ生かしつつ、より患者さんに最適な方法で治療を行いたいと思います。